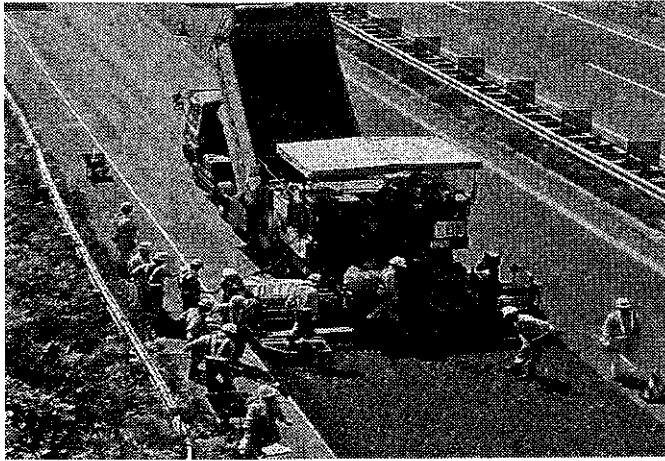


乳剤濃度高め散布量削減

遮水型排水性舗装を改良

NIPPO



アンダーコートパービアスの施工状況

NIPPOは、遮水型排水性アスファルト舗装「アンダーコートパービアス」を改良した。排水機能のある混合物の底部に遮水層を形成し、基層への雨水浸透や基層混合物のはく離を防止する工法で、今回の改良では、遮水層に用いる改質アスファルト乳剤の濃度を高めて、乳剤散布量を従来の1平方メートルあたり15センチから12センチに削減した。本年度から展開している改良版はすでに4万3000平方メートルを受注済みで、このペースで10万平方メートルを形成する。舗装層を形成するうえで、基層を確保したい（舗装事業本部）としている。

既設の密粒度舗装を排水性舗装に変更する場合は、既設部を10センチ切削した上で、まず遮水機能のある密粒度アスコンを5センチ、その上に排水性アスファルト舗装を5センチ敷きならすのが一般的。

これに対してアンダーコートパービアスは、既設5センチだけを切削し、そこに排水性舗装5センチを敷きならすもの。その際、舗装底部に乳剤と専用分解剤を散布し、薄い遮水層を形成する。一方で、層への雨水浸透を防止し、雨水浸透で懸念される基層のはく離を回避する。

同工法を利用することで、既設舗装の切削量を半分にするなどの効果により、従来工法に比べて6割程度のコストで同等の機能を獲得することができるといふ。06年度に開発してから、08年度までの累計実績は10万平方メートルに達している。

今回同社では、専用の乳剤「アンダーコートンル」を高濃度化することで不透水性を高めた「同II」を開発。散布量を減らしても、これまで通りの遮水機能を発揮できるようにした。

本年度からスタートした改良版の展開により、現段階で国道、高速道路、地方道あわせて2万5000平方メートルの施工が完

了。受注済み物件を合わせると計4万3000平方メートルに達する。

同社では「技術提案の成果で、発注者にも工法を積極的に積み上げたい」としている。

ある」として、来年度以降市場がさらに広がることを期待。現場の状況などに応じて導入を提案し、実績をさらに積み上げたいとしている。

日刊建設工業新聞
平成21年10月23日掲載